

桑折復興へ日本酒完成

有志企画、町内で限定販売

震災と原発事故からの復興を願ひ、桑折町の有志でつくる「桑折醸会」(鈴木清幸会長)は13日までに、町内で収穫された米と水を使ったオリジナル日本酒「純米吟醸 辛口桑折」を完成させた。同日、町内でお披露目された。



オリジナル日本酒を手に「町の活気づけになれば」と話す鈴木会長

こだわりは「地元産」

で収穫した酒米「夢の香」と、半田銀山の地下深くから採取した天然水「香村金剛水」を使用。喜多方市の大和川酒造に醸造を依頼した。今回は、一升瓶約800本分が完成し、町内でのみ販売している。鈴木会長は「とても飲み口が良く、香りが素晴らしい」と太鼓判を押し、「ぜひ桑折町に買い求めに来ていただくことで、町内に活気が出れば」と期待を込める。価格は一升瓶が3千円(税別)、四合瓶が1500円(同)。問い合わせは割烹仙台東屋(電話024・582・3169)へ。

節電しても明るい
若松・有紀の反射板
家庭や事業所での節電対策で蛍光灯の本数を減らしても明るさを維持できるとして、会津若松市の住宅資材製造・販売業、有紀(橋本保社長)が取り扱う天井照明用反射板「ハシモトZ R2グレード」が注目を集めている。



節電対策で注目を集める
天井用照明反射板

が販売する。有紀によると、光の反射、拡散に優れているのが特長。天井と蛍光灯の間に取り付けただけで部屋の照度を上げることができ、蛍光灯の間引きでの明るさの低下につながるため、経費削減の効果が期待できるという。取り付け後の特別な維持作業がいらず、耐久年数も長いとしている。

全国ネクタイ展で入賞

福島塩沢さんと生徒7人

手作りネクタイと染色教室を主宰する福島市森合の塩沢清子さんと生徒7人は13日までに、東京都内で開かれた「全国手作りネクタイ展」で入賞した。



優秀賞受賞と生徒の入賞を喜ぶ塩沢さん

羽田さん(福島) グランプリ



東月あかちゃん フォトコン

グランプリに選ばれた羽田さんの作品

人形の東月(いわき市)主催の「東月あかちゃんフォトコンテスト」の審査会は12日、同市で開かれ、福島市の羽田恵美子さんが孫の渚君を撮影した作品がグランプリに選ばれた。6回目の今年は297件の応募があった。同社と報道機関関係者が審査し、グランプリのほか準グランプリ2点とナイスショット賞を選んだ。



準グランプリに選ばれた小林さんの作品



準グランプリに選ばれた宮瀬さんの作品
羽田恵美子(福島市) 赤間幸子(福島市) 田山登志子(いわき市) 原知佳(郡山市) 上野恵(いわき市) 荒川貴章(同) 鈴木愛香(茨城県) 大竹亜唯(喜多方市) 鈴木美枝子(いわき市) 鳥羽絵莉香(福島市) 渡辺晶子(棚倉町)

「生活満足度低い」

若松に避難 大熊町民アンケート

会津若松市で避難生活を送る大熊町民の精神健康などを調査した横浜国立大学大学院国際社会科学研究院の藤森立男教授(59)は13日までに、調査結果を公表した。調査の結果、「打ち込めるものや趣味、生きがいを感じられず生活満足度が低い」という結果が認められたという。来年7月、フランスで開催される国際応用心理学会で調査結果を発表し、福島の実状として伝える予定。



避難先から
北 東
西 南

8月に同市の仮設住宅で暮らす被災者と会津若松市民を比較する形で個別面接とアンケートを行った。大熊町民はストレスに対する解消法として「友人に話を聞いてもらう」や「買い物をする」が会津若松市民よりも高く、喫煙によるストレス解消も高かったという。

島嶼火の際、島外に避難した島民の研究をするなど災害被災者の心の健康などを調査研究している。今回の結果を踏まえて藤

森教授は「時間のかかる問題だが、被災者の生きがいや生活満足など心理面の復興を重視した支援が喫緊の課題」と訴えている。

fresh friendly fukushima
ネット59
ワイド

藤森教授は2000(平成12)年、伊豆諸島の三宅



民生・児童委員の委嘱式

伝達式と委嘱状伝達式は2日、福島市の飯野学習センターで行われた。

「地域」の安全安心は地域で守っていく」と話すのは福島北地区防犯指導隊長の高橋義博さん(73)写真。年末年始事件事故防止県民総ぐるみ運動の期間に合わせ、防犯への誓いを新たにしていく。



「地域」の安全安心は地域で守って

坂本さん(福島)ら表彰

「緑水苑」写真コンテスト

郡山市喜久田町の「四季の里 緑水苑」の第15回写真コンテスト表彰式は13日、緑水苑で行われた。式では緑水苑の佐久間繁登龍杯全国高校剣道あす白河で強豪集うきょう練習試合披露



同展には全国から550本のネクタイ作品が寄せられ、塩沢さんは優秀賞を受

● 維心伝心
同地区管内には五つの